

平成 29 年度 学校自己評価システムシート (県立進修館高等学校)

目指す学校像	「進徳修業」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、明るく活力にあふれ、地域から信頼される学校。
--------	---

重点目標	<p>1 授業の工夫・改善に努め、個に応じた多様な学びを支援して 確かな学力の確実な向上と第一志望をかなえる進路指導を実践する。</p> <p>2 規律ある態度と豊かな人間性を育み、笑顔で活気のある生徒を育てる。</p> <p>3 地域と連携した活動の推進と教育活動の積極的な発信に努め、 地域から期待される学校を目指す。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価						学校関係者評価	
年度目標					年度評価 (2月1日 現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○授業規律は守られるようになったが、積極的に学ぶ姿勢がまだ足りない。基礎学力を定着させ、主体的な学びや思考の活性化を深めるための授業力向上に積極的に取り組む必要がある。	○基礎学力の向上及び定着と主体的な学びを促す授業の実施に向けた工夫及び改善	・アクティブラーニングやICT活用を推進するプロジェクトチームの結成 ・基礎力診断テストを活用した個々の学力の適切な把握と共有・活用 ・基礎学力の向上に向けたきめ細かい授業の工夫や面倒見の良い学習支援の充実	・アクティブラーニングやICTを活用した授業の実施が進んだか。 ・授業改善校内研修会を実施したか ・生徒アンケートの「先生が熱心に授業を行っている」割合が増加したか ・欠点者数が10%以上減少したか	○学び合いを取り入れた授業の工夫がなされるようになってきた。 ・学力向上小委員会を立ち上げ、学力向上プロジェクトチームを結成、授業改善の研究を始めた。 ・授業力向上校内研修会を2月実施。 ・生徒アンケート結果は、81%で8割の生徒が授業を評価をしている。 ・2学期欠点者数の昨年度比は、全体で0.76と10%以上減少した。	B	・基礎学力の向上及び定着を図りながら、「主体的で対話的な深い学び」を実践するために本校の生徒に見合った授業の在り方を全体で検討する。 ・ICT活用については視覚面・聴覚面からアプローチできるような施設設備の充実を図る。 ・定期考査前や長期休業中に学校で集中して勉強する機会と場を設ける。 ・大学進学者数を増やすために安易に専門学校を志望しない指導を低学年から行う。
	○多様な進路希望を持つ生徒が自らの進路を実現する意欲を高めるための組織的かつ継続的、計画的な進路指導が必要である。特に大学進学指導をより充実させる必要がある。	○生徒の主体的進路選択を促す指導と第1志望をかなえる組織的、計画的な進路指導の実施	・学年、教科、進路指導部が緊密に連携した進路指導の実施 ・個に応じた補習授業の計画的、継続的実施 ・専門資格取得の奨励 ・就職希望者への面接指導等、管理職を含む組織的計画的支援	・組織的、計画的な進路指導が実施できたか。 ・補習授業開講数は増加したか ・専門資格取得者数が増加したか ・第1志望進路決定率が向上したか ・生徒アンケートの「きめ細かい進路指導を行っている」割合が増加したか	○多様な生徒の実情を踏まえ、個に応じた進路指導を行った。 ・夏季休業中の補習授業開講数は、23、冬季休業中は8だった。 ・工業科、商業系列中心に昨年度同様の専門資格取得者数を保持。 ・12月末現在88%が進路決定。 ・生徒アンケート結果は76%だった。	A	・プロジェクトチームの立ち上げは素晴らしい。生徒同士で話し合える授業は良いと思う。 ・大学進学者数を増やすことは今後の生徒募集につながる第一歩である。 ・定期考査前に放課後や土日に教室で勉強させてくれたり先生に教えてもらえたりするのは大変ありがたい。 ・大学や専門学校の出前授業など外部からの情報量を増やすことは主体的に生徒が進路選択する機会となるのではないかと。 ・目的意識を持った高校生活を送らせるためにも大学進学や専門資格取得に向かわせ、易きに流れることのないよう叱咤激励している姿勢がうかがえる。今後も生徒一人ひとりの実態に合わせた指導をお願いしたい。
2	○生徒指導の徹底は、高校生活の基盤であるとの共通認識に立ち、基本的生活習慣の確立と規律ある態度の育成に継続して取り組む必要がある。	○基本的生活習慣と規律ある態度の育成に向けた組織的、継続的な生徒指導の実施	・「授業心得」の継続指導と徹底 ・整容指導等の計画的な実施 ・登下校時の駅前等の校外巡回 ・警察や保護者等と連携した指導 ・問題行動、いじめ等の未然防止に向けたきめ細かい指導の実施 ・交通安全、薬物乱用防止等の計画的、効果的な指導	・遅刻率及び欠席率が前年度よりも減少したか。 ・問題行動発生件数が減少したか ・生徒アンケートの、規律ある態度の育成に係る各項目で改善が確認できたか ・警察やPTAと連携した組織的指導を継続したか	○基本的な生活習慣や規律は確立されつつある。 ・遅刻率は前年度比0.81で大幅に減少したが、欠席率は1.12と微増した。 ・問題行動発生件数は激減した前年とほぼ変わらなかった。 ・生徒アンケート結果は89%だった。 ・祭りや登校時を中心に13回PTA生徒指導委員会と指導を行った。	A	・基本的な生活習慣の確立と規律ある態度の育成のための指導は従来通り継続する。 ・PTAと連携した組織的な指導を今後も継続する。 ・年度当初の部活動加入率は増加傾向にあるが、長期休業後に退部する生徒もいる。2学期に再度部活動加入調査を行うとともに部活動を継続するよう学校全体で指導する。 ・生徒会活動を更に活性化させ、生徒の自主性を育む。
	○広大で恵まれた施設を活用し、部活動や学校行事を活性化し、明るく活気のある学校づくりと、生徒が活躍できる場を設け、自らの自己実現に向けた活動を進める必要がある。	○部活動や学校行事等における生徒の主体的活動の促進と活性化	・部活動加入の積極的奨励 ・部活動体験等の計画的実施 ・部活動支援と活動実績の向上 ・生徒が主体となった学校行事等活性化 ・合宿所整備と活用促進	・部活動加入割合が上昇したか。 ・部活動において顕著な活動実績が見られたか。 ・生徒アンケートで「学校行事に積極的に参加した」割合が増加したか ・校内外での部活動が活発化したか	○部活動加入生徒数は増加した。 ・部活動加入率は1年86.2%、2年88.2%、3年81.9%で10%増加。 ・関東大会2部、全国大会3部出場 ・生徒アンケート結果は86%だった。 ・合宿所の整備により校内夏合宿をした部活動数が増えた。	B	・学校生活を有意義に送る上で、その基盤となる基本的な生活習慣の確立や規律の遵守が効果的になされている。PTAとも連携して健全育成の取組が行われ功を奏してきているものと思われる。 ・頭髪服装検査やPTA合同の登校指導などで生徒の服装の乱れや遅刻者数が減少している。安心して高校生活を送れる。 ・部活動の充実と活躍が学校の一体感、盛り上がり大きく関わってくるはずだ。最後まで部活動を続けさせて欲しい。 ・恵まれた環境の中で部活動ができることをもっとアピールすべきだ。文武両道の推進は重要である。 ・進路変更する生徒数が1年次に相対的に多いようだが、低学年での指導の工夫で何とかなることもあるのではないかと。
3	○学校情報の発信と地域と連携した活動を促進し、学校理解の促進と地域の信頼を獲得して、安定した生徒募集を実現する必要がある。	○多様な情報発信の継続と工夫改善 ○組織的、計画的な生徒募集の実施	・学校通信を活用した効果的広報 ・HP更新回数増加による情報発信 ・地域活動への積極的な参加 ・学校説明会の工夫改善 ・管理職、教職員が連携した組織的計画的な生徒募集活動の活性化	・学校HPのアクセス件数が10%以上増加したか。 ・学校説明会の参加生徒数が増加し、全学科において1.1倍を超える受検者の応募があったか	○HPによる情報発信の成果が出た。 ・アクセス数は1.1%増加。 ○12月15日現在の入試倍率が上昇。 ・学校説明会参加数は、8月期706、10月期230人、11月期199人、1月期140人、昨年度比2%増加	A B	・HPのアクセス数が昨年10月に最多を記録している。興味・関心を引く内容を日々発信するのは容易ではないと思うが、新しさのアピールは生徒・保護者にとって大きな魅力である。 ・SNS等を用いた発信を活用した方が良い。 ・市内外で行われる様々な行事等に参加してアピールすることがとても重要である。まだ進修館高校の良さが浸透しきれていない。 ・複数学科を持つ進修館高校ならではの魅力と各料の内容等を学校案内だけではなくもっと発信した方が良い。 ・体験授業の影響は大きいと思う。実際にやってみることが一番効果がある。 ・ライバル校を想定して研究し、戦略的に生徒募集すべきである。
	○中学生の減少や地域の生徒や保護者、中学校等のニーズを踏まえ、長期的展望に立った学校の将来構想の検討を進め、地域に根ざした学校づくりに取り組む必要がある。	○長期的展望に立った学校構想の具体化	・学校将来構想の県教育委員会への提案 ・2020年構想委員会を中心とした将来構想の具体化と教育課程の抜本的見直し	・将来構想案を県教育委員会へ提出したか。 ・多様な進路希望を持つ生徒への進路保証を可能にする教育課程を編成したか。	○学科再編構想の具体案を作成できた。 ・5月に要望書を提出した。 ・2020年構想委員会に新教育課程検討小委員会を立ち上げ、学科再編に伴う新教育課程を検討するため8回実施。2学期末に職員会議で決定。	A	・情報発信機能としてHPの活用が定着しつつある。各部活動の情報発信を更に活発にする。 ・学校説明会に参加する中学生の一定数は確保できている。部活動体験、イベント説明などのきめ細かい生徒募集を継続する。 ・2019年度入学生の新生徒募集で新しい進修館高校をアピールできるよう早期に準備を整える。

